

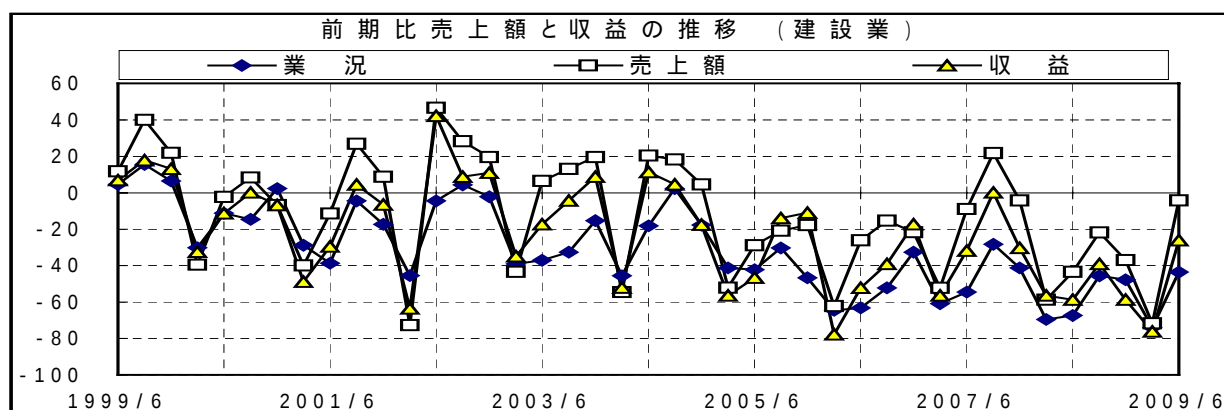
建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期見通し
業 況	-47.8	-74.0	-43.6	-32.6
売上額	-37.0	-71.8	-4.3	-6.6
収益	-58.7	-76.2	-26.2	-19.5

今期の業況判断DI値は 43.6 と、前期比改善しマイナス値が 30.4 ポイント縮小、前年同期(67.4)との比較でも改善を示した。地区別にみると、静内地区で横ばいとなった以外全地区で改善している。

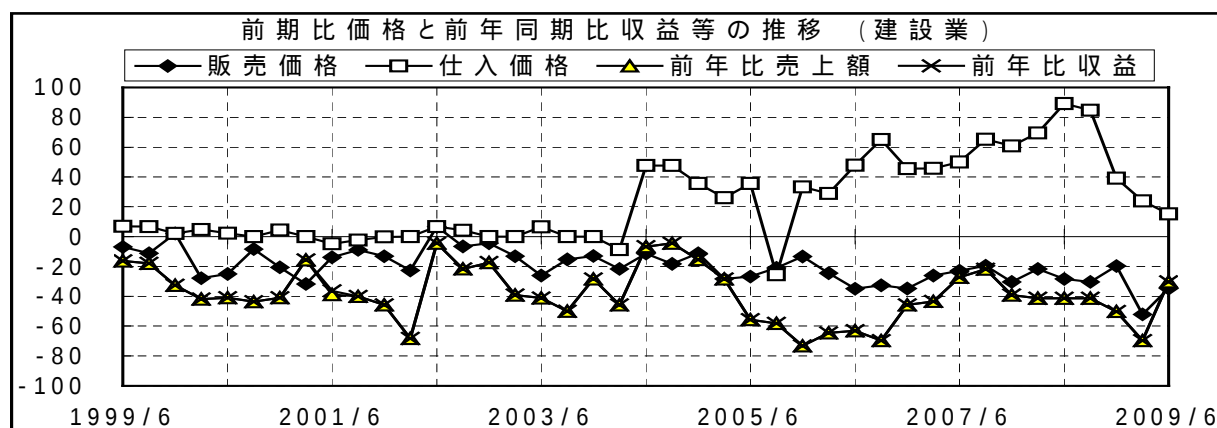
売上額、収益判断DI値は、売上額が 4.3、収益が 26.2 と、前期比それぞれマイナス値が縮小し 67.5、50.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期見通し
請負価格	-19.6	-52.2	-34.7	-15.2
仕入価格	39.1	23.9	15.2	8.7

請負価格判断DI値(34.7)は、前期比マイナス値が縮小し 17.5 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DI値(15.2)は、前期比プラス値が縮小し 8.7 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12 月 期実績	1~3 月 期実績	4~6 月 期実績	7~9 月 期見通し
残業時間	-12.9	-23.9	-26.0	-13.1
人手状況	6.6	21.7	15.3	-4.4

残業時間判断DI値は 26.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 2.1 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 15.3 と、前期比プラス値が縮小し 6.4 ポイント低下、人手過剰感を弱めている。

□ 設備投資の動き

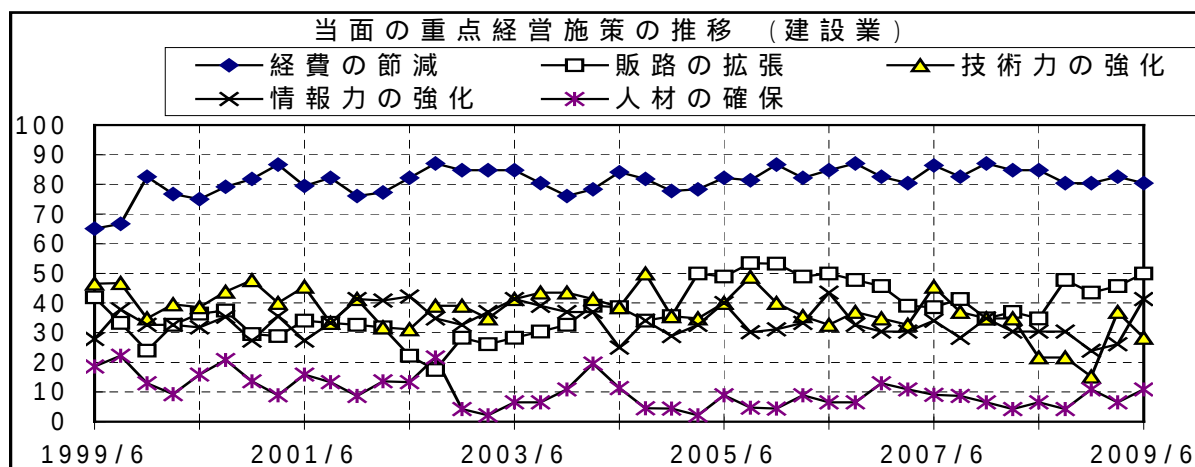
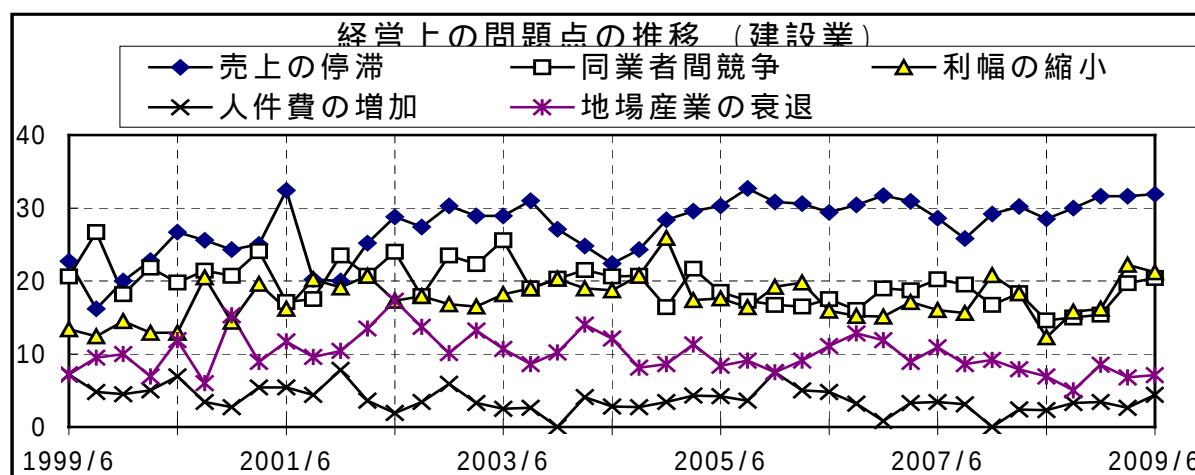
設備投資の充足感を示すD I 値は15.2と、前期(8.6)からプラス値が拡大し6.6ポイント上昇、過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は80.4%と、前期(87.0%)から6.6ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は21.7%と、前期(13.0%)比8.7ポイント上昇し、件数で前期の6社に対し10社の実施となった。また、来期予定では当期比6社減の4社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ31.9%、次いで「利幅の縮小」21.2%、「同業者間との競争」20.4%、「地場産業の衰退」7.1%の順に続き、前期との比較ではさほど変化のない回答割合となっている。業種別にみると、総合工事業、設備工事業が「売上の停滞」、職別工事業が「売上の停滞」、「同業者間との競争」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ80.4%、次いで「販路を広げる」50.0%、「情報力の強化」41.3%、「技術力を強化する」28.3%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成21年7~9月期)の予想業況判断D I 値は32.6と、今期(43.6)実績比11.0ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が6.6(今期4.3)と、マイナス値が拡大し今期実績比2.3ポイントの低下見通しにある一方、収益は19.5(今期26.2)と、マイナス値が縮小し今期実績比6.7ポイントの上昇見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I 値は、請負価格が15.2(今期34.7)と、マイナス値が縮小し今期実績比19.5ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は8.7(今期15.2)と、プラス値が縮小し今期実績比6.5ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

卸 売 業 8 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

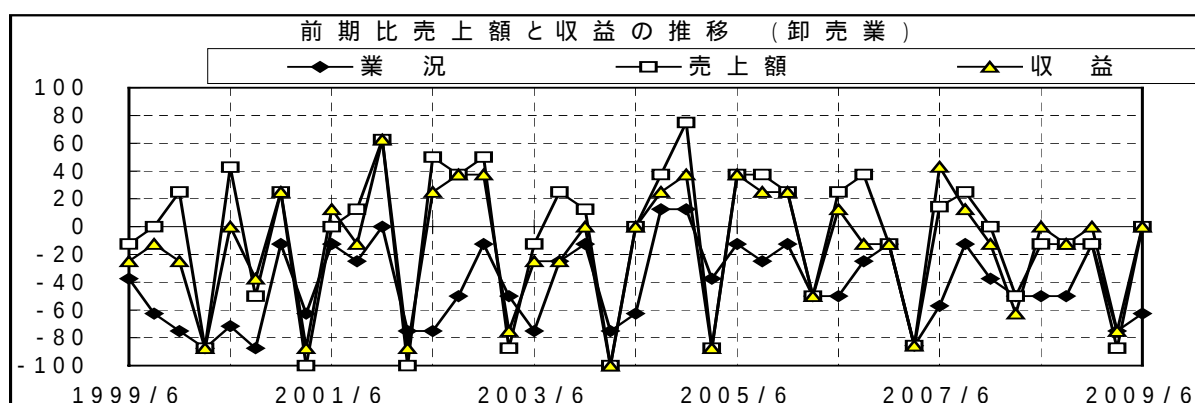
□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-12.5	-75.0	-62.5	-25.0
売上額	-12.5	-87.5	0.0	12.5
収益	0.0	-75.0	0.0	12.5

今期の業況判断DI値は 62.5 と、前期比改善しマイナス値が 12.5 ポイント縮小した一方、前年同期(50.0)との比較では悪化を示した。地区別にみると、前期比浦河地区が改善し、静内、三石、様似地区が横ばいとなっている。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 0.0、収益が 0.0 と、前期比それぞれマイナスからゼ

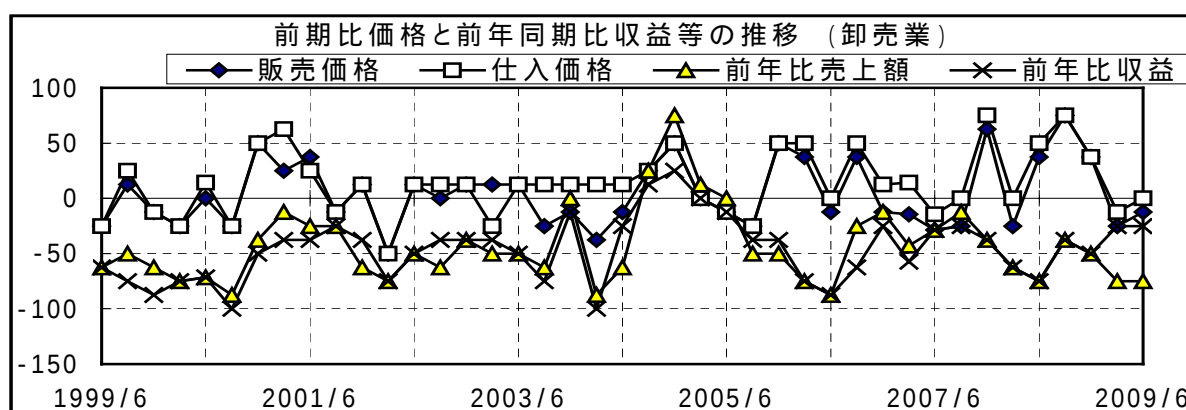
ロ値に転じ 87.5、75.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	37.5	-25.0	-12.5	-12.5
仕入価格	37.5	-12.5	0.0	0.0

販売価格判断DI値(12.5)は、前期比マイナス値が縮小し 12.5 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DI値(0.0)は、前期のマイナス値から 12.5 ポイント上昇、価格基調に高低のないゼロ水準となった。業種別にみると、農林・水産が販売、仕入価格ともに上昇、食品が販売価格で横ばい、仕入価格で低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	12.5	-12.5	0.0	-12.5
人手状況	12.5	25.0	12.5	0.0

残業時間判断DI値は 0.0 と、前期比残業時間が減少したとする企業割合が減りゼロ水準となった。

人手過不足判断DI値は 12.5 と、前期比プラス値が縮小し 12.5 ポイント低下、人手過剰感を弱めている。

□ 設備投資の動き

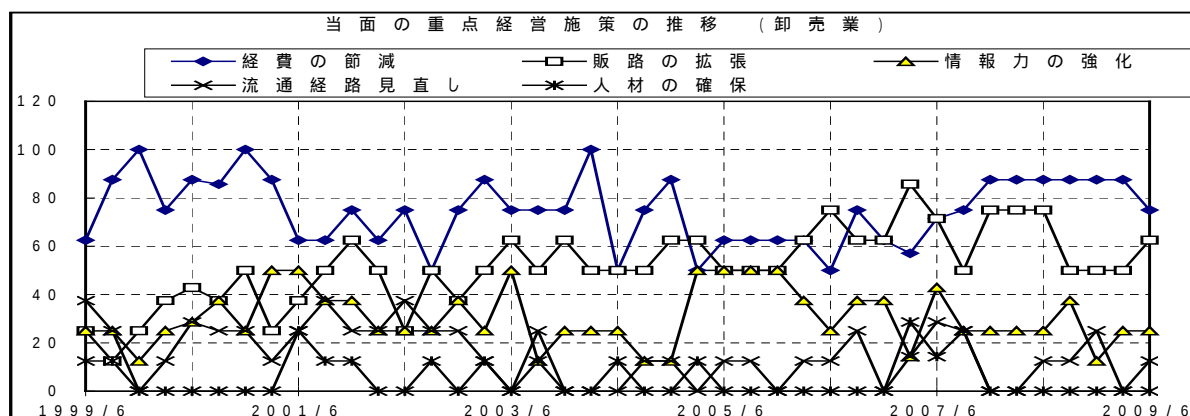
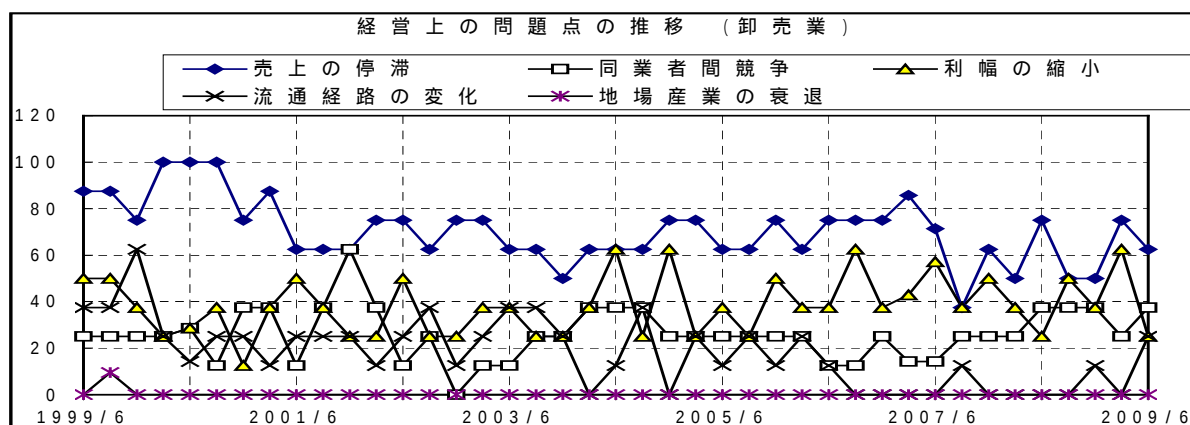
設備投資の充足感を示すD I 値は 12.5 と、前期(12.5)のプラスからマイナス値に転じ25.0ポイント低下、不足感が強まる一方、適正と回答した企業も62.5%と、前期(87.5%)から25.0ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は12.5%と、前期(25.0%)比12.5ポイント低下し、件数で前期の2社に対し1社の実施となった。また、来期予定では当期比2社増の3社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げ62.5%、次いで「同業者間との競争」37.5%、「利幅の縮小」、「流通経路変化」、「店舗の老朽化」25.0%の順に続き、前期との比較では「取引先の減少」、「流通経路変化」、「店舗の老朽化」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産が「取引先の減少」、食品が「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ75.0%、次いで「販路を広げる」62.5%、「情報力の強化」、「パート化を図る」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産が「経費の節減」、食品が「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成21年7~9月期)の予想業況判断D I 値は 25.0 と、今期(62.5)実績比 37.5ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が12.5(今期0.0)、収益が12.5(今期0.0)と、それぞれゼロからプラス値に転じ今期実績比12.5、12.5ポイントの上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格が12.5(今期12.5)、仕入価格が0.0(今期0.0)と、それぞれ今期実績比横ばいの販売価格が低下基調、仕入価格が高低のないゼロ水準見通しとなっている。